

2015年7月14日 第82号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)

http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

本日、署名提出決起集会・7.14 大集会 明日から、3日連続正門前座り込み・大集会 強行採決阻止にむけて最大結集を！

14日(火)

◆止めよう！戦争法案7・14集会 意思統一と署名提出 15時～16時20分

砂防会館別館3階六甲 主催：憲法共同センター

◆戦争法案廃案！強行採決反対！7・14大集会・国会請願デモ

集会＝18時30分～ 日比谷野音 国会請願デモ＝18時45分出発

15日(水)

◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会前座り込み行動(①) 13時～17時 国会正門前

◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会正門前大集会(②) 18時30分～20時 国会正門前を中心に

16日(木)

◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会前座り込み行動 13時～17時 国会正門前

◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会正門前大集会 18時30分～20時 国会正門前を中心に

17日(金)

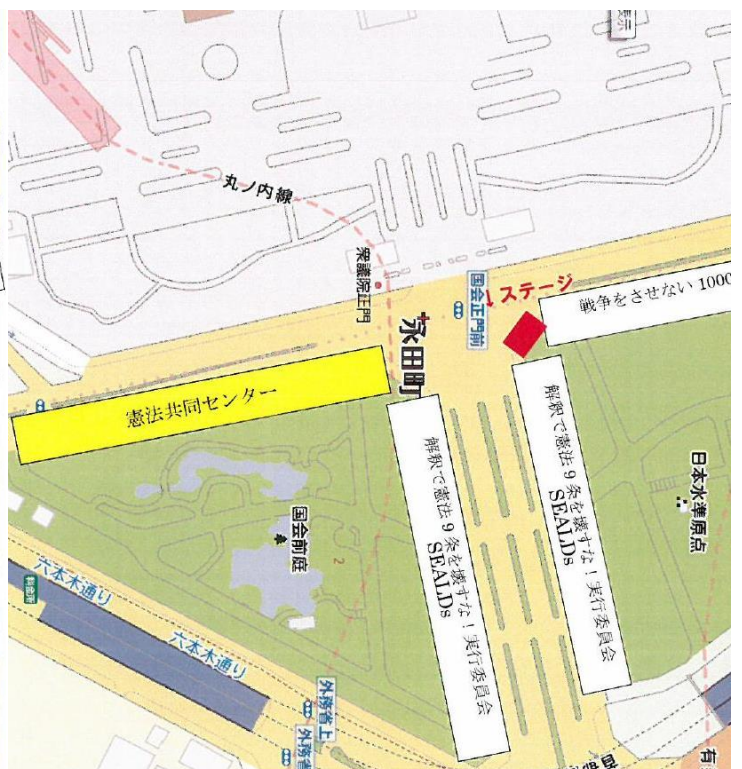
◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会前座り込み行動 13時～17時 国会正門前

◆戦争法案廃案！強行採決反対！国会正門前大集会 18時30分～20時 国会正門前を中心に

①15～17日国会正門前座り込み配置図



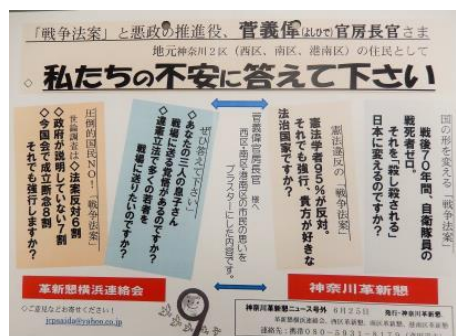
②15～17日国会正門前大集会配置図



各地域・団体のとりくみ

全国革新懇 各地でとりくみ広がる

菅官房長官地元で、自民党事務所で、街頭で、門前で



【神奈川県革新懇】6月25日、菅官房長官の選挙区地元で「戦争法案NO！宣伝包囲作戦」を行い、61人が参加しました。「官房長官さま、不安に答えて下さい」チラシ650枚を配布して訴え、署名を166人から集めました。「戦争法案NO！」の声で包囲する行動となりました。

【札幌・東区革新懇】街頭宣伝で小学6年生6人連れが署名。「集団的自衛権って海外でアメリカと一緒に戦争することって知っているよ」。

【東京・東村山・三多摩革新懇】6月30日、東村山市栄町にある自民党の木原誠二事務所を訪問し、戦争法案について、廃案とするよう

要請しました。

【神奈川・湯河原革新懇】湯河原革新懇の会員も呼びかけ人になって7月4日、憲法学者の小林節氏を招き「許せません 戦争法案」をテーマに講演会が開かれました。二万人余の湯河原で450人の講演会が成功。町史上、最大規模の集会になり、参加者からは「勇気が出た」という声が届きました。

【京都・サンサン革新懇】7月7日、三菱自動車・南広町正門早朝宣伝「戦争法案」廃案に！

【広島革新懇】安佐南革新懇が6月3日に街頭宣伝。戦争法案が憲法9条をふみにじり、立憲主義を否定すると訴えました。

【東京革新懇】7月7日、総がかり実行委のよびかけで各地で戦争法案阻止のいっせい行動に取り組みました。東京では東京革新懇をはじめ各地域革新懇が行動、全国革新懇事務局員も全員、街頭宣伝へ。

【名古屋・みなと革新懇】6月19日、みなと革新懇の緊急よびかけで「戦争法案NO！」の宣伝署名行動をおこないました。のぼり、パネル、うちわなどさまざまな宣伝資材を使い、1時間で10人余のリレートークで反対を訴えました。（全国革新懇FAXニュース456、457号より）



←東京革新懇作成 戦争法案NO！シール

幅14センチ・高さ4センチメートル。2色

1枚30円 送料はご負担願います。

東京革新懇あてにFAX・メールでお申し込みください

FAX03-3947-7902 メール

「だれのこどももころさせない」 安保関連法案に反対するママの会 26日には渋谷でデモ行進

7月13日、安保関連法案に反対するママの会が記者会見し多くのメディアにも取り上げられました。発起人西郷南海子さんが記者会見で述べた「ママの会」設立経緯と趣旨についてご紹介します。

【会の趣旨と設立経緯】

発起人・西郷南海子

「安保関連法案に反対するママの会」の発起人、西郷南海子と申します。3人の子どもと生活しながら、大学院で研究をしています。そして今日、この記者会見に集まったママたちは、安保関連法案反対の思いで

つながった仲間たちです。「だれのこどもも、ころさせない」。これが、このママたちを結びつける、ただひとつの一致点、どうしてもゆずることのできない思いです。

一週間前、インターネットでの署名活動として、たった一人から始めた活動ですが、同じ思いをもつ全国のママたちの声が、ものすごい勢いで集まっています。そしてついには、SNSからも飛び出して、東京・渋谷の街頭に大集合することに決めました。「どこかの偉い人」ではなくて、子どもと日々泣いたり笑ったりするわたしたちが、街頭に集い、生身の人間としての声を響かせたい。そう考えて、「7・26 戦争立法反対！ママの渋谷ジャック！」を打ち出しました。7月26日、日曜日、12時半から渋谷駅前で街頭宣伝をし、2時に宮下公園からデモを出発させる予定です。

「だれのこどもも、ころさせない」。この思いは、それぞれの立場を超えた思いです。この思いを、渋谷で、そして全国のどの町でも響かせていきたいです。「だれのこどもも、ころさせない」。この合言葉を一致点に、さまざまな声を持つ人たちが出会い、そこからまた各自が、自由に活動を広げていく。そういった、誰からでも、一人からでも、始められる活動を目指します。この会の主人公は、「どこかの偉い人」ではありません。主人公は、日々子どもと泣いたり笑ったりする、一人ひとりのママなのです。

「安保関連法案に反対するママの会」を立ち上げてから、まだたった一週間ですが、人々の声を「無視」することで成り立つ政治への、がまんできないというママたちの思いが、形になり始めています。賛同署名と一緒に寄せられた、2000件ものメッセージには、けっしてひとくりにすることのできない様々な声が響き合っています。今日ここでは、その多様な声のひとつとして、わたし自身が「安保関連法案に反対するママの会」と、「7・26 戦争立法反対！ママの渋谷ジャック！」に込めた思いを、わたし自身の言葉で表現したいと思います。

いま、わたしたちが暮らしている世の中では、専門家以外は意見を言うてはいけないというような雰囲気वादがただよっています。発言の価値が、その人の所属や立場で決められてしまいがちです。しかし、この雰囲気に流され、自分の意見を飲み込んでしまうことが、「民主主義」を空っぽのものにしてしまうのではないのでしょうか。こうしてただ、何年かに1度の選挙を待っている、あるいはやり過ごす、というやり方には、もはや限界があると思います。

こうした形ばかりの「民主主義」の行き着く先が、今の安倍政権なのかもしれません。解釈改憲というやり方で、最高法規である、憲法を踏みじってみせる。強行採決をちらつかせ、人々に「自分が考えたり行動しても無駄だ」と思わせる。そうやって人々に無力感をうえつけていく政治のあり方に、これ以上、引きずられていくたくはありません。この、安保関連法案の成立をやめさせるだけでなく、自分が生きていきたい社会のあり方について、思い切り語り合える空間を、それぞれの手で作っていくときが、来たのだと思います。

そう考えて、わたしは、この会をたった一人から立ち上げました。子どもと生活することで見えてきた、どうしてもゆずれない思いを表現したいのです。子どもは、人間が生まれてくるということの、計り知れない「不思議」を教えてください。その命が、誰かにとっての所有物のように扱われたあげく、むごたらしく使い捨てにされる。その、最たる例が、戦争です。これだけは、なんとしてでも止めたいのです。人間が、生まれ、生きるということの「かけがえのなさ」を、わたしは他の誰にも奪われたくありません。そして、この思いをもっているのは、わたしだけではありません。サイトに寄せられた2000件を超えるメッセージには、「殺し、殺されるために、この子を産んだのではない！」という声があふれています。誰かの「駒」になることでしか、人間が生きることを許されないような社会のあり方は、もう、終わりにすべきだとわたしは思います。わたしは、あきらめません。あきらめられません。

この思いを胸に抱えたママたち、仲間たちが、活動の一致点を探して見つけ出したのが、「だれのこどもも、ころさせない」という合言葉です。殺されても仕方のない子どもなんて、どこにもいません。また、「殺す」ということを、引き受けなければならない子どもも、いてはならないはず。そして、すべての兵士は、誰かにとっての子どもでもあります。「だれのこどもも、ころさせない」。このひとつの合言葉で、全国

各地、さらには世界の人々と、手を取り合えるとわたしは信じています。

子育てに追われ、なかなか家を出ることもできなかったママたちが、すでに社会に向けてメッセージを発信しはじめています。「だれのこどもも、ころさせない」と。「7・26 戦争立法反対！ママの渋谷ジャック！」では、この声を、首都の、ど真ん中で響かせます。「どこかの偉い人」ではなくて、子どもと日々泣いたり笑ったりするママが、街宣車の上に登り、群衆に向かってスピーチをする。誰のものでもない、一人ひとりの言葉で。こういう時代が、ついに、やってきたのだと思います。歴史の分れ目を、こちら側へと引き寄せましょう。7月26日は、ガーベラの花を手に、渋谷でお待ちしています。ガーベラの花言葉は「希望・常に前進」です。

東大人緊急抗議集会 「戦没学徒忘れるな」「ヒトラーの手法」

東京大学駒場キャンパスで7月10日夕刻、「安保法案 東大人緊急抗議集会」が開かれた。現役学生らが「戦争法案を通そうとしている政府の圧力に穴をあけたい」と有志で企画。定員300名の会場は、学生や市民で満杯になった。集会では東大教員や研究所職員、現役学生らが登壇し、スピーチを行った。

●戦没学徒の声忘れるな／佐藤学氏（元教育学部長・学習院大学教授）

1990年の湾岸戦争以来、200万人以上の子どもが戦争で死んでいる。戦争が若者や子どもを幸せにするか。戦争法案が通れば、戦争に行かされるのは若者たちだ。東大は昔、学徒出陣で3000人以上を戦場に送り、その多くは特攻隊員にされた。若者は一般軍人より特攻隊員にしやすいからだ。若者の理想主義を利用できたから。死者は分かっているだけで1652人。実際は7割以上が死んだといわれる。

東大勤務時代にずっとやりたかったのは、戦死した学生の墓碑銘を安田講堂前に築くことだ。生きている者は死者の声を忘れてはならない。代弁していかなければならない。学問は未来の幸福と平和のために利用されるべきであって、戦争のためではない。皆さんと連帯して闘い続けたい。

●ヒトラーの手法と同じ／高橋哲哉氏（総合文化研究科教授）

東大に勤めて30年になるが、こういう会は初めてだ。皆さんの危機感を強く感じる。

昨年の閣議決定から新ガイドライン制定、今回の安保法制に至るまで、戦後日本でこんなことがあっているのかという、「トンデモ」な状況になっている。

ヒトラーが政権をとったときの全権委任法という法律を連想する。これは「政府が法律をつくることができる」というもの。しかも「憲法に違反してもよい」という条文まで入っている。「議会が法律をつくる」というのがワイマール憲法の規定だが、そこを改正せずに憲法違反の法律をつくってしまった。安倍内閣がめざしているのはこれではないか。

●軍事研究にはノーを／板倉博氏（生産技術研究所職員）

私の勤める研究所では戦争中、軍事研究が行われていた。今でも東大のなかで一番、軍事研究への応用が近いところといえるだろう。

40年勤める中で、ボスの先生が軍事に近い研究をしようとしたことが2度ほどあった。一介の職員として、ずいぶん悩んだ末に「私はこの研究には関わりたくない」と意見を述べた。それが効いたかどうかは分からないが、それらの研究はしないことになった。仲間の研究員にも軍事研究には関わってほしくない。職員組合とも協力して軍学共同には反対の声を上げ続けたい。

沖縄の辺野古基地反対運動をみていると、現地の普通のおじさん、おばさん、赤ちゃんを背負った母親にも「自分の町の未来は自分たちが決める」という民主主義が根付いているのが分かる。闘いの合間には歌ったり踊ったりしてとても明るい。民主主義は闘って勝ち取るもの、闘いが民主主義を深めるものだということ

とを若い人にも知ってほしい。

●強行採決には反対／学生たちの声

「このまま戦争法案が通ればメード・イン・ジャパンの武器で殺人が行われるようになる。世界の平和を本当に守りたいなら9条を守るべきだ。私たちには『殺されない権利』だけでなく、『殺さない権利』もある」

「入学して間もないので、この法案については新聞で知る程度の知識しかない。こういう自分にも深く理解できるようになるまで少なくとも強行採決はしないでもらいたい」

「安保法制が通れば即戦争につながるという、この集会の主張が短絡的すぎるように感じる。あえてそれを言いたくて今日参加した。目的が『強行採決反対』なら、焦点をそこに絞るべきではないか」

(7/14 付連合通信隔日版より)